

独立機関銃第十大隊（中支第七三五八部隊）略歴

陸軍少佐 坂

登

年月日

昭五、八、一五

概

中華民國定徵省滁滁に於て軍令陸甲第九一号に依り第十三軍隷下第六十五師團現役兵を基幹とし第七十師團及第六十一師團の一部の兵力を以て左記の如き編成を以て編成を完結す

要

隊別	將校	准士官 下士官	兵	計	備要
大隊本部	四	六		一〇	
第一中隊	五	一一	九二	一〇八	
第二中隊	五	一一	九二	一〇八	
第三中隊	五	一一	九二	一〇八	
合計	一九	三九	三七六	三三四	即下編成トス

自 船五、九、三 至 五、一〇	行動の概要及其日時、兵力 右兵力を以て上海を出船、福州休戦に参加せり
自 五、一〇 至 五、一四	福建省閩候県馬尾附近の警備及防空に任ず(矢力カーン中隊休)
自 五、一五 至 七、一六	単集号休戦に参加す 光号休戦準備の爲江蘇省松江府附近に於て大陸防備に任じありて 停戦に関する詔書を拜し戦斗行動を中止す
自 八、一六 至 三、一、三三	江蘇省青洲渠附近に在りて内地帰還を待機す 上海出発 在任保に上陸 復員を完結す
二〇、一	人員(兵員)の移動 軍令に基く臨時編成改正に依り第三中隊中隊長以下一〇三名独立混成第三十三 聯隊に転属せしむ
一、一五	昭和十九年徵集現役兵一〇一名着隊 部隊第一回の初年兵を迎へ 軍命令に依り兵二五名準飛行場大隊に転属す。

1991

3055

年月日	概	要
昭三、一、三五 同日	大隊長以下二五八名 佐世原上陸 復員を完結せしむ左記の如く入院患者及戦死戦傷死者生死不明者を生せしめたり	
	1. 入院患者	将校一名、下士官一名、兵二四名
	2. 戦死者	下士官一名、兵一名
	3. 戦病死者	下士官一名、兵一六名
	4. 生死不明者	兵三名
	5. 聯合軍刺留	将校軍医一名、戦犯容疑者兵一名
	6. 業務整理者	陸軍少佐 堀 登 陸軍准尉 中 藤 清

12000

3056

中支三
中支三

独立混成第六十二旅団砲兵隊略歴

年月日	昭和十九、七、七 七、七
概	昭和十九年軍令陸甲第八十一号に據り独立混成第六十二旅団臨時編成下令 編成完結
人員	砲兵隊長 陸軍大尉 田村 利二 本 部 副官以下 二八名
第一中隊長	陸軍中尉 坂本 貞
第二中隊長	中隊長以下 二〇五名 陸軍中尉 住吉 貞一郎
人員計	中隊長以下 一八七名 四二一名
裝備	第一中隊 九九式山砲四門 第二中隊 改登三八式野砲三門 三八式野砲一門
馬匹 本部	一八頭

3057

年月日	概	要
昭元、七、二四	第一中隊	二八頭
七、二六	第二中隊	二二頭
七、三一	計	六八頭
八、一	中支那派遣のため普通寺出巻	
八、五	門司港出帆	
	安東通過	
	山海關通過	
	上海着	
八、五	同地にありて教育訓練並に作戦準備	
	裝備改変せられ上海中支那野戦兵器廠に九九式山砲四門及三八式野砲一門を返還	
自昭元、九、九、二三	同廠より九四式山砲四門及改造三八式野砲一門を受領す	
至、一〇、一〇	祈問作戦に参加	
九、二四	吳淞港出巻	
九、二七	福建省連江縣走海半島に敵前上陸	
十、五	福州入城	
	爾後同地にありて警備並に其の周辺地区の討伐に従事	

～202～

3058

昭二〇、二二五

昭和二十年軍令陸甲第十八号に據り旅団編成改正せられ新に独立野砲兵第七大隊第三中隊(九一式十糧榴弾砲中隊)を部隊に編合せらる。

編成左の如し

人員

砲兵隊長

陸軍少佐

田村 利二

本部

副官以下

一二四名

第一中隊長

陸軍中尉

坂本 貢

中隊長以下

二〇一名

第二中隊長

陸軍大尉

住 吉 貞一郎

中隊長以下

一三六名

第三中隊長

陸軍大尉

岡村 要 助

中隊長以下

一三六名

人員計

六〇一名

裝備

第一中隊

九四式山砲

四門

第二中隊

改造三八式野砲四門

第三中隊

九一式十糧榴弾砲四門

馬匹

本部

一〇頭

~203~

3059

年月日	概
自昭二〇、五、一五	第一中隊 三七頭
至、七、一六	集野休戦に参加
五一五	第一中隊は先遣隊となり
五一七	本郡 第二、第三中隊は夫々駐屯地出発、
七、一六	建江、羅原、温州、天台、曹娥鎮、松江を経て 江蘇省青浦縣陳坊橋に到着、
八、一四	同地及青浦にありて陣地構築並に警備に従事す、
八、一八	停戦に関する詔書煥発せらるる同日戦陣行動停止江蘇省青浦縣青浦に於て待命
九、二六	江蘇省松江県松江にて武装解除
昭二、一、一六	内地帰還のため上海港出発
一、二九	在野保巷上陸
一、三〇	第三中隊人員佐世保出発帰還
一、三一	主力(第三中隊を除く)佐世保出発帰還

~204~

3060

外 / 中支

一三一	人員左の如し	
	除隊召集解除者	六一一名（残務整理者を含む現地除隊なし）
	死亡者	二四名（尚他に留守名簿に記載公ささの六名あり）
	生死不明者	一六名
	入院患者	二五名
	転属者	二三名
	残留者	三名（救護要員として）
	計	七一一名
二一六	生死不明者中左記の者生存帰還並立混成第六十二夜間通信隊に転属せしめらる （昭之、マ、心博多に於て除隊又は召集解除となる）	
	左記（五名）	
	柏倉 真一郎	斎藤 喜雄
	小笠原 義一	中田 晋
	小川 喜一	
	但し小笠原義親は上海に於て入院しあり	

~205~

3061

独立野戦重砲兵第十大隊略歴

年月日	概	要
昭和一九、七、七	動員下令	
七、一七	野戦重砲兵第十三聯隊動員定結（小倉野戦重砲兵第五聯隊補充隊に於て）	
七、二四	真作命第一号に依り大隊の中夫派遣第十三軍の隷下に入り毛呂出発門司港に向 い前進す	
一九、七、二五	（大隊長以下六六八名 火砲九六十五 榴一二門）	
七、二六	門司港出帆	
八、七	釜山上陸	
首召元、八、七	上海到着	
至、九、二二	上海に於て教育訓練並警備	
自、九、二三	浙閩作戦参加	
至、一〇、一〇	第一中隊独立野砲兵第七大隊長の指揮下に入る慧高隊と分離す	
自、一〇、一一		
至、田二〇、五、一四	中華民國福建省福州附近に於て陣地構築並に警備	

~206~

昭二〇	二二五	第一中隊は混成第八九夜団に転属す 独立野戦重砲兵第十大隊衛戍完結 大隊長以下五〇八名 火砲（九六十五榴八門） 番号作戦参加
自二〇、五、一五 至二〇、七、一六	八一四 八一八	中華民國江蘇省松江縣泗涇鎮に於て陣地構築並警備 停戦に關する詔書煥發、同日戦斗行動停止、同地に於て待命 軍令陸甲第一六号に依り復員下令
昭二、一、一七	一〇、二五	武装解除 上海系中の總泗涇鎮出発
昭二、一、一七	一、二七	上海到着
昭二、一、二五	一、二五	上海出帆 佐世保上陸（上陸人員大隊陸軍大尉碑田恭行以下四六八名） 復員完結

~207~

外
中
支
子

							年 月 日								
							概								
<p>内 員 五 一 四 名</p>															
<table border="1"> <tr> <td>内 地 除 （ 召 解 ） 四 六 八 名</td> <td>死 亡 九 名</td> <td>生 死 不 明 一 名</td> <td>入 院 一 八 名</td> <td>転 属 一 三 名</td> <td>残 留 者 一 名</td> <td>L S T 残 留 一 名</td> <td>内 還 四 名</td> </tr> </table>							内 地 除 （ 召 解 ） 四 六 八 名	死 亡 九 名	生 死 不 明 一 名	入 院 一 八 名	転 属 一 三 名	残 留 者 一 名	L S T 残 留 一 名	内 還 四 名	
内 地 除 （ 召 解 ） 四 六 八 名	死 亡 九 名	生 死 不 明 一 名	入 院 一 八 名	転 属 一 三 名	残 留 者 一 名	L S T 残 留 一 名	内 還 四 名								
							要								

~208~

3064

独立野戦高射砲第五十四中隊將歴

年月日	概	要
昭一九、七、二五	独立野戦高射砲第五十四中隊要員として千葉県市川市国府台野戦重砲兵第十七連隊補充隊に到着 通稱号東部隊第七十三部隊	
七、二六	編成完結 部隊固有独立野戦高射砲第五十四中隊 部隊通稱号第二一七五部隊 部隊人員 中隊長陸軍中尉森秀雄以下一六一名 装備 八八式七煙高射砲 六門 同 彈藥 一二〇〇発 視 測 具 一組 九九式小銃 八挺 同 彈藥 二四〇発 衛戍地出発 下関港出帆 釜山港上陸	
七、二七 七、二九		

~209~

3065

年月日	概	要
昭二九、八、三	鮮嶺国境通過	
八、四	中嶺国境通過	
八、八	上海着	
八、三〇	九九式小銃八挺	同弾薬四八〇発受領
九、一七	入院	六名 高射砲弾爆創
	死亡	一名 上海陸軍病院
九、二〇	入院	八名 上海陸軍病院
自昭二九、九、二三 至 一〇、一〇	浙閩作戦参加	中隊長以下一四四名
昭二〇、五、八	三八式歩兵銃	三〇挺 同弾薬一八〇〇発受領
自昭二〇、五、二六 至 七、二六	集合作戦参加	中隊長以下一五二名
	戦死	三
	戦傷	五
	戦病死	一
八、九	嘉興兵站病院にて戦病死	一
八、四	停戦に關する詔書発表同日	戦陣行動停止駐屯地附近にて待命
八、二八	軍令陸甲第一六号に依り	復員下令
九、一八	上海陸軍病院にて	一名戦傷死

3066

九一九	江蘇省松江にて 一名不應死
九二八	兵器同属岳聯合団に引渡す
昭三、一、一七	上海着
一、二三	LSTに乗船 中隊長以下一三五名 入院 一三名
一、二五	佐世保上陸時衛生上等兵與村未可LSTに残留 中隊長以下一三四名上陸
一、二五	復員式完了 残務整理者を除き召集解除

總		費	
入	出	生	死
院	所	死	亡
属	在	不	不
一	明	明	明
三	〇	一	八
名	名	名	名
一	〇	一	八
名	名	名	名
一	〇	一	八
名	名	名	名
一	〇	一	八
名	名	名	名

~211~

3067

野戦機関砲第六十町中隊略歴

年月日	概要
昭十九、七、二一 七、二四	昭和十九年軍令陸甲第十八号に依り野戦機関砲第六十町中隊編成完結
	固有事務隊長 野戦機関砲第六十町中隊 通稱号 第一二五二八部隊
	中隊長 陸軍中尉 田代稔 部隊人員 一〇五名
	装備 九六式機関砲六門（三門を編成時受領尅の三門の代りとしてMG三を上海にて受領す）
	同弾薬 六〇〇〇発 観測具 三組
	大陸命着一〇七三号に依り七号出發 門可巻出發
	釜山上陸 山海関通過

~212~

3068

外3 中支3

自 八、六	中華民國上海着
至 八、六	次期作戦準備
自 九、二	上海防空警備並浙閩作戦（福州攻略戦）準備
至 九、三	浙閩作戦参加
自 九、二一	馬尾地区に於て防空警備並陣地構築
至 一〇、一〇	所台島の飛行場援護
自 一〇、二一	軍令陸甲第十八号に依り独立混成第六十二旅団臨時編成（改編）下令
至 一一、二一	編成完結（独立混成第六十二旅団に編合）
自 一一、二五	集号作戦に参加
至 一一、二七	江蘇省松江に於て防空警備並に陣地構築
自 一一、二八	停戦に関する詔書発表同日戦即行動停止駐屯地（松江）に於て待命
至 一一、二八	軍令陸甲第十六号に依り復員下令
自 一一、二八	兵各同属品を聯合国に引渡す

~2/3~

3069

年月日	概
昭二二一七 一三七	上海着 LST乗船 中隊長以下九一名 （編成時総員一〇五名の内訳 LST乗船九一、死亡四、生死不明三、入院二 現地除隊三 転属二）
一二五	佐世保上陸に際し衛生兵一名LSTに残留 中隊長以下九〇名上陸
二六	復員式終了 残務整理者一名を除き一二五附にて召集解除

概		総				員		
除召	内	死	生死不明	所在不明	入院	残留	転属	その他
九〇	九	四	三	三	二	二	二	〇

～2/14～

3070

独立混成第六十二旅団工兵隊略歴

年月日	概	要
昭一九、一、一七	軍令甲第八十一号に依り独立混成第六十二旅団工兵隊編成下令	
七、一七	普通工兵第五十五師隊補充隊に於て編成着手 編成完結（編成人員隊長以下二一六名） 指揮班 四ヶ小隊	
七、二四	中支に向い普通工兵隊出発	
七、二七	釜山上陸	
八、一	山岳通過支那派遣軍の隷下に入り第十三軍戰鬥序列に入らしめらる。	
九、二七	上海集結福州に向ふ	
九、二七	装備完成と海上輸送準備訓練	
九、二七	上海出帆	
九、二七	福建省建江界江河口左岸に上陸	
昭二〇、二、一	福州附近に在りて交通作業隊地構築並に同地附近の警備訓練に通過	
二、二五	軍令甲第八十八号に依り臨時編成（改編）下令	
二、二五	編成完結	
二、二五	左記部隊を新に編成す	

記

~215~

3071

年月日	
戦	<p>昭三〇、五、一五 至、七、一七 自、七、一七 至、八、一三</p> <p>運集勤務第三十五中隊の一部 特別第二飛行場設定隊の全部 水上勤務第三十六中隊の一部 本部 一移中隊二 編成定員 人員隊長以下五〇二名 急 匹 七頭</p> <p>集号作戦参加</p> <p>江蘇省松江県松江附近に於て光号作戦準備反同地附近の警備 停戦に関する詔喚発同日戦事行動停止駐屯地附近に於て待命 軍令陸甲第十六号に依り復員下令 中国軍に武器譲渡 陳坊橋（江蘇省青浦県）移駐 復員準備</p>
戦	<p>昭三、一、二八</p> <p>上海集中のための陳坊橋出発 同日上海到着</p>

外々 中支 3

二二二
二二五

上海港出帆

度鬼島上陸

(上陸人員隊長陸軍大尉楠木俊太郎以下三九六名)

内地除隊 三九六名(含残務整理二名)

現地除隊 一名

死亡 三五名

人員内訳
総員五〇八名

生死不明 一名

入院患者 三五名

転属 四〇名

~217~

3073

独立混成第六十二旅団通信隊略歴

年月日	概	要
昭一九、七、二二	編成	軍令陸甲第八十一号に據り独立混成第六十二旅団編成下令 九邊留守第五十五師団通信隊補充隊に於て編成に着手
七、十七	編成完結	部隊長陸軍中尉横田重幸以下一七五名（三八式騎兵銃一四五、三〇平式銃剣 一五一、九五式軍刀三、九二式電燈器三二、九二式小破獲線七二、九二式十握 回光器二、九二式十二回線交換機二、九二式十四回線交換機二、九四式三号甲無線 線機四、九四式三号丙無線機一、四九式踏車甲二二、三八式踏車機二二、 將校乗馬具五、馬二五）
七、二五	部隊行動の概要	中支派遣の懸河可巻出帆
八、一	山遊園通過	山遊園通過
八、五	上海等	上海等
至 自 百、九、三 五、二、三	浙閩作戦（福州攻略戦）に参画	兵力一七四

～218～

昭二〇、二一	軍令陸甲第十八号に據り独立混成六十二旅団編成改編下令 編成完結
二、二五	通信隊長陸軍中尉横町重幸以下二九六名 (九二式電話機一六・九二式小波覆線二四、三号無線機四、五号無線機八 馬二五)
自昭十九、一〇二	光号作戦準備(福州附近の警備及陣地構築)
至〃二〇、五、二四	兼号作戦に参加
自〃〃五、二五	
至〃〃七、二七	
自〃〃七、二八	
至〃〃八、三三	江蘇省松江附近に於て光号作戦準備及同地附近の警備
八、二四	停戦に因する詔書喚発同日戦斗行動停止駐屯地附近に於て待命
八、一八	軍令陸甲第十六号に依り復員下令
九、二七	中国軍に武装放棄並に復員準備
昭二一、二九	乗船の絲松江出発
一三〇	上海集結
二、一二	乗船上海港出発
二、一五	博多港上陸

外
5
4
5

年月日	級	受
(上陸人員通信隊長陸軍大尉 坂田重幸 以下三二一名)		
内除隊(召集解除)三二一名 残務整理者二名を含む)		
人員内訳	現世除隊()	二名
総員三五三	死亡	七名
	生死不明	三名
	入院患者	五名
	転属	一五名

~220~

3076

独立混成第六十二旅団勤務隊操第二三〇七五部隊略歴

年月日	概	要
昭二〇二二五	昭和二十年二月一日軍令陸甲第十八号を以て編成下令	
	水上勤務第三十六中隊 中隊長以下二二五名	
	陸上勤務第八十七中隊 中隊長以下一一八名	
	建築勤務第三十五中隊 中隊長以下一六八名	
	を以て独立混成第六十二旅団勤務隊を編成完結	
	直ちに独立混成第六十二旅団長の隷下に入る	
	人員	
	勤務隊長 陸軍中尉 直町信雄	
	指揮班 一二名	
	水上勤務小隊 陸軍少尉 須田孝 以下一六六名	
	陸上勤務小隊 陸軍少尉 梅村正幸 一六六名	
	建築勤務小隊 陸軍准尉 渡辺滝雄 以下一六六名	
	装飾	
	ノ小銃 兩隊裝備 四九挺	
	個人ノ 五〇	
	附加ノ 一〇〇	

~221~

3077

年月日	概	要
自昭三〇、二、二六	之九五式軍刀	一
三、〇五、二〇	〇九〇式喇叭	二
自三、〇五、一五	論成也	
至三、〇五、一六	中華民國福建省閩侯縣屬尾	
	陣地構築及補給業務並に小路輸送業務	
	果号作戦に参加	
	部隊は海沿河建部隊となり陸行する旅団五刀に対する訓方補給並に旅団隊属資 材の上海に転送に任ず	
七、一〇	部隊は上海に集結す	
昭三〇、八、二四	(一) 転送せる軍需品を松江県松江旅団司令部へ転送	
八一六	(二) 中支那野戦兵器廠に協力、廠の警備反兵器補給業務	
八二五	停戦に関する詔書発表せられ同日戦行動停止	
昭三二、一、一五	軍令陸甲第十六号に依り續戦下令	
	江蘇省松江縣松江に於て武装解除	
	内地帰還の爲の陸軍中尉須田孝 以下三八五名を廻	

~222~

3078

〇 申支

部隊長以下三名(残務整理有要員) 隊属改切支隊のため残留す	一、九
三、八五名上船巻出帆	一、二八
博多巻上陸 百果解除	一、三一
部隊長以下三名乗船	
上海巻出帆	
博多巻上陸	
人員区分左の如し	
区 分	員 数
除隊百果 宛地	三
解除音 対応	三、八八
死亡者	一、九
生死不明者	三、九
入院患者	一、二
転 傷 者	五、〇
計	五、一
残務整理有要員等	

~223~

3079

独立混成第六十二旅団勤務隊略歴

代理 陸軍大尉 直田 言 雄

年月日	概要
昭二九、八 昭二〇、二、二五	<p>指揮隷属関係及其変遷の概要</p> <p>福州下戦参加のための上勤務第三十六中隊として庚辰第三十三軍直務となる</p> <p>福建省馬尾に於て改編の爲水上勤務三十六中隊、運集勤務三十五中隊、陸上勤務八十七中隊の概ね各一小隊を合流旅団勤務隊を編成(独立混成第六十二旅団の隷下とする)</p> <p>編成 持校 五名(隊長、軍医を含む)</p> <p>准 下士官 十一名</p> <p>兵 四九五名</p> <p>計 五一一名</p>
昭一九、九 昭二〇、二、二五 五十八	<p>部隊履厂</p> <p>福州下戦参加の爲吳淞出発</p> <p>旅団勤務隊を編成</p> <p>展合休戦参加</p>
七、一	<p>主として大発動艇、戎克に依る海上兩方戦動に任じ</p> <p>吳淞着上海に依りて海上輸送せる軍需品の整理に任ず</p>

～ススル～

昭三〇、三二八
昭二一、一、二

七
一、五
八
九

越前より帰還迄

(イ) 帰還のため兵舎出発（隊長以下三十八名）

(ロ) 渡辺海尉以下一〇〇名乗船の熱市政府出発、同日乗船（日本丸）同日兵舎
出帆

横尾副司令

(ハ) 渡田中尉以下二八五名

市政府出発 同日海防艦一三二号に乗船 同日吳松出帆

博多迄着

上陸

(ニ) 現任隊属責任者として三名（隊長以下）上海に残留しあり、

(ホ) 残務整理の為渡田中尉残留す（トロコ現在）

(ヘ) 本船の島出発時より内地到着召集解散に至る迄入院、逃亡兵の他の事故なし

~225~

3081

独立混成第六十二旅団野戦病院略歴

陸軍々医大尉 演田良文

年月日

秘

要

昭二〇二一八
二、三五

部隊編成

昭和二十年軍令陸甲第十八号に拠り編成下令

編成第一日

編成完結

編成地 福建省閩候縣福州南台

編成人員

階級	區分		計	省(下)士官				計	矢	計	合計	摘要
	軍医	衛生		薬剤	經理	牙科	衛生					
現在員	一九	二	二一	一	一	二	四	二二	二二	二二		
定員	一九	二	二一	二	二	一	五	二六	二九	二九		
計	一九	二	二一	二	二	三	九	二七	三一	三一		

部隊長命課

精独立混成第六十二旅団野戦病院院長 陸軍々医大尉 演田良文

~227~

年月日	概 要
昭三、二、二五	<p>病院開設</p> <p>福建省南台野戦病院開設</p> <p>部隊編成完結と同時に主力を以て福建省閩侯縣福州南台に於て同地第百四十二</p> <p>兵站病院よりの其の業務を継承し一部を以て長樂縣營前に開設なりし同兵站病</p> <p>院第二半部の業務を継承し患者療養所を開設す</p> <p>同病院閉鎖</p> <p>葉号水戦に伴い左記に依り病院を閉鎖す</p> <p>患者療養所</p> <p>病院 (主力)</p>
五、一四 五、一六	<p>松江縣松江野戦病院開設</p>
七、三	<p>在松江城内第七十師野戦病院第二半部より其の業務を継承し開設す</p> <p>同病院閉鎖</p>
三、一、三〇	<p>内地帰還のための閉鎖</p> <p>教育</p> <p>昭和二十年長旅団内第一次初年次征生兵後期教育左記により実施す</p>

〜28〜

3083

自二〇、四、一五 至 五、一一	ノ被教育人員 八四名 教育期間
三、五、七	作戦参加
七、天	<p>師団集結作戦行動開始に伴う救護班の編成及配属区分 左の如し 戦斗救護班 四箇班（一、班編成人員 中校二、下士官三、兵一〇） 第一救護班 独立歩兵第百十大隊 第二 〃 独立歩兵第百二十五大隊 第三 〃 独立歩兵第百十二大隊 第四 〃 独立歩兵第百十四大隊 海路前進部隊救護班一箇（編成人員中校一、下士官三、兵七） 戦斗行動</p> <p>第百六十一飛行場大隊長の指揮下に入り行軍を以て駐留地福州南台を出発し 行動間に於ける患者の収療看護業務に任じつつ連江及温州を陸路中隊団砲兵隊 長の指揮下に編入の後 江蘇省松江県松江に集結</p>

~229~

外、中文

				年月日
				戦斗死傷状況
昭和二十年八月五日軍需品輸送並に船内放棄員として川石島より上海に向い海路航行途中生死不明	患者護送員として同右	昭和三十五年五月十九日入院患者として福州より上海に向い海路航行途中生死不明	生死不明となりたる概要	外戦行動間に於ける生死不明者 頭部貫銃創 右下腹部左臀部貫透性貫通銃創 福建省連江県連江沖海上 戦死 戦傷 予征 陸上 鈴木米吉 秋山和夫
三八五	ク	昭和三十五年五月十九日	生死不明となりぬる年月日	
川石島	ク	天台東(涪洞島)	生死不明となりぬる所	
予	補	現	役種	
中軍	一征	上征	官等	
霜鳥喜彦	近藤三郎	青山 亥	氏名	
				要

~230~

3085

自 七、七	至 七、九	八、一四	九、一五				
次期作戦準備のため松江県松江域内に在りて待期 待戦に関する詔書漢巻 武装解除 武装解除 同 場所 江蘇省 松江県 松江 武装解除後の集地地 同 右 村校命課 進 破				昭和三十八年八月二日、船内放 護員として川石島より上海 に向い海路流行途中生死不明	昭和三十八年八月二日	昭和三十八年八月二日	昭和三十八年八月二日
				附 金港山 道	堀	見	予
				一 征	一 征	上 征	一 征
				鈴木 木 家 系	田 中 勇 吾	弘 中 徹	小 沢 金 次

~231~

308

3086

		年月日
陸軍衛生大尉	陸軍衛生中尉	佐藤 妙夫 (昭三〇、軍六、一〇省)
陸軍々医大尉	陸軍々医中尉	郷原 幸吉
同	同	船島 吾逸
同	同	岡田 要入
同	同	合品 義雄
同	同	秋山 和夫
同	同	井筒 重興
同	同	多田 羅正
陸軍々医大尉	陸軍兼刺中尉	中谷 永雄
陸軍兼刺大尉	陸軍兼刺中尉	以上(昭三〇、軍六、一〇省)
命課移動		
獨立歩兵第四百十二大隊	陸軍軍医少尉	岡村 一雄
獨立混成第六十二旅團司令部	同	河野 照一郎
同	同	横井 彪
補 獨立混成第六十二旅團野戦病院付	同	(昭三〇、軍七、一五附省)

～スヲス～

3087

補	第百七十一兵站病院附	陸軍衛生少尉	大	湯	藤	太郎
補	第七十師団野戦病院	陸軍衛生少尉	星	出	茂	樹
補	独立混成隊第六十二旅団野戦病院附	(昭三〇、二、一六) 軍八、六(省)				
補	独立混成隊第六十二旅団司令部	陸軍々医大尉	嶋	鳥	喜	逸
補	独立混成隊第六十二旅団司令部	陸軍々医少尉	横	井		彪
補	独立混成隊第六十二旅団司令部	陸軍々医大尉	河	野	照	一郎
補	独立混成隊第六十二旅団工兵隊	陸軍々医大尉	倉	岳	菱	雄
補	独立歩兵隊第四百十二大隊	陸軍々医大尉	松	山	和	天
補	独立歩兵隊第四百十大隊	陸軍々医少尉	曾	我	部	明
補	独立混成隊第六十二旅団野戦病院附	以上(昭三〇、二、一六) 軍八、六(省)				

外
中
支
心

						年月日
						昭和九、九
						昭和二十年九月九日現在に於て召集を解除す
						部隊員死亡
						陸軍主計中尉 藤本一三
						将校百集解除
						要
病名	死亡年月日	死因	死種	役種	官等	氏名
頤部盲銃創	昭三、六、二	戦死	戦	補	上	鈴木米吉
顔面挫創(頭蓋骨骨折)	昭三、九、一	戦病死	狂	現	兵	藤本昌治
コレラ	二、三、五	ク	ク	補	上	青木依次
肺結核	一、三、八	ク	ク	現	上	青山弘
アメリカ性赤痢	二、一、三	ク	ク	補	一	血藤三郎

生死不明者帰投
集号依戦間海路航行中生死不明中なりし左記の者帰投

~234~

3089

昭和三十二年一月二日帰投	陸軍軍医大尉	頼	縁	喜	進
同	陸軍衛生伍長	小	澤	金	次
同	陸軍衛生兵長	弘	中	中	放
同	上等兵	田	中	勇	吉
昭和三十二年一月二日帰投	同	一	等	兵	近
同	同	三	藤	三	郎
内地帰還のにゆ集中地	松江出発				
上海乗船					
部隊員数属					
第十兵站勤務隊要員左記入員を転属せしむ					
任軍	田村次郎	任上	当	銘	広
任伍	久保三郎	同	新	井	弘
任兵	知念盛秀	同	内	山	武
同	下地忠宗	同	岸	喜	本
任上	花城太郎	同	貝	淵	宗
転入者					
在上海站病院退院患者陸軍兵長佐野蒼以下三〇名当部隊所属人員として転入す					
上海飯田棧橋(押送艇二一号)乗船					

~275~

3090

村
10
中
支

年月日	概
<p>三、三 三、四</p>	<p>出帆 博多港上陸 復員</p> <p>部隊編成以來人員異動状況</p> <p>内地(除隊)呂某解除 一八二</p> <p>死 亡 者 五</p> <p>生死不明者 三</p> <p>入院患者 六</p> <p>転展者 一六</p> <p>計 二一三名</p> <p>昭和二十一年三月四日</p> <p>独立混成第六十二旅団野戦病院長</p> <p>陸軍少医大尉 桑田良文</p>

~236~

3091

独立混成第八十九旅団司令部 略歴

陸軍少将 梨岡壽男

年 月 日	概 要
昭二、八、二〇	編成完結状況
九、九	部隊は元隊六十師団歩兵第五十五旅団司令部にして温州攻路並に同要域確保の 急、浙江省金華縣金華に於て梨岡支隊を編成司令部として前夜戦の任に就く 温州城攻路
九、二二	更に樂清縣碧石、台教、柳市地区に進攻同地要域確保
一〇、二、三〇	支隊司令部は樂清縣碧石に設置す
二五	里令陸甲第一八号に依り独立混成第八十九旅団の編成を下令せられ 編成を完結す
三、三三	行動の概要及其日時
七、一八	編成完結
八、八	某另隊参加の急前項要域を出发 奉化県奉化に到着 同地確保並に九号另隊準備

~231~

3092

年月日		概要
八、五		終戦の大詔拝受
八、六		内地出発
八、三		杭州を経て西上海同文書院大学に集結
九、一〇		武装解除
九、七		寶山縣南吳淞集中營に集結 待船
三、三		第一次帰還者を内地に出発せしめてより
三、五、七		司令部の大部帰還に至る迄七回に亘り帰還復員す 但し中甸側整理のため旅団長以下四名と上船禁止者一名岡附添一名を含み六名 を吳淞南集中營に残留しあり
五、七		矢力へ入院生死不明死亡等 編成当時の矢力一、二名にして復員前に矢力は一三七名なり 入院一名 死亡二名なり 其の他特筆事項なし 主力増多上陸 二日市復残務整理 終了 復員完結す

三、一四

一〇、〇〇博多港に異状なく到着

当日一四、〇〇匠に一切諸給與其他噴調に完了し

一六、〇〇復原式挙行

残務整理着林大尉を除く前田大尉以下二四名は一九、〇〇巻岳川行復原列車に乗車夫々帰郷せり

~239~

3094

独立混成第八十九旅團 略歴

年月日	
編成	<p>独立歩兵第五百二十四大隊 小川中尉以下四九名 独立歩兵第五百二十五大隊 上村中尉以下五〇名 独立歩兵第五百二十六大隊 南少尉以下三〇名 独立歩兵第五百二十七大隊 天野少尉以下五〇名 以上上村中尉以下一七九名 中国側兵站倉庫に警役中国編成を以て帰還を命ぜらる。</p>
概	<p>行動概要 〇六、〇〇 兵隊兵舎出発 〇九、〇〇 市政府到着 中国側検査を受検 一七、三〇 駆逐艦推に乗船（輸送指揮官、自動車大隊角田大尉） 一一、三〇 時博多港に上陸 当日一六、三〇 迄に諸給養其の他順調に終了し一七、〇〇 後員式を挙行。</p>
要	<p>三、二四</p>

~220~

中支了

残務整理者上村中尉を派し

小川中尉以下一七七名は三三〇の博多港発、復員列車にて夫々帰郷せり

(途中船岡に於て独歩第五百二六大隊 陸軍上等兵 辻繁雄肺炎発病により

入院せしむ)

(国立福岡病院に入院、同日召集解除)

~241~

3096

独立混成第八十九旅団（先遣隊）略歴

陸軍少将 梨 岡 壽 男

年月日	概	要
昭三、二、二五	編成年月日 軍令陸甲第一八号に拠る	編成地 中華民國浙江省永嘉縣温州 略歴及行動の概要
三、二五		軍令陸甲第一八号に拠り独立混成第八十九旅団（歩兵四ヶ大隊、砲兵隊、工兵
自三、三、二五		一中、通信一中、輜重二中、勤務一中、独立機關銃一大、高射砲一中、機關砲
至三、六、三一		一中、野戰病院給病馬隊）を編成す
自三、五、二五		浙閩沿岸（温州周辺地区）確保
至三、七、八		集約旅隊参加
自三、七、八		浙江省奉化縣城北地区警備
至三、八、二五		

外史子

~242~

3097

身に
付す

独立混成第八十九旅団司令部

陸軍獣医大尉 坂東弘一

年月日	概観	要
昭三、四、三	<p>行動概要</p> <p>掃蕩のため部隊主力一介随し輸送指揮官独立歩兵第五百二十四大隊長後藤少佐の指揮下に入り屯営出発</p>	
四、四	上海港出発	
四、五	博多港上陸	
同日	復員式終了	
同日	復員完結	
昭三、四、一七	独立歩兵第五百二十四大隊	
	陸軍々曹	
	津田 藩 一 整理士	

~243~

3098

独立混成第八十九旅団司令部 略歴

年月日	
概	<p>昭三、三、七 三、一、五 一、八 一、一〇 一、二 一、五 一、六</p> <p>昭三、三、七 昭三、三、七</p> <p>行動の概要 乗船の急主力に分離し上海旧市政府に集合 上海港出発 佐世保港上陸 出口軍曹残務整理要員として福岡縣二日市町支那派遣軍役員本部に出頭 書類の整理に任ず 審査受検 等務完了</p> <p>昭三、三、七 昭三、三、七</p> <p>部隊出発 矢力 二七名</p>
要	

~244~

3099

内ノ
中ノ

独立混成第八十九旅団司令部の一部

年月日	概	要
昭三、三、七 昭三、一、五	乗船の爲主力に分離上海旧市政府に集結 内地帰還のため上海港出発	
一、八	左世保港上陸	
一、一〇	残留者へ出口軍營を除去夫々除隊召集解除 残務整理の爲二日市支那派遣軍侵襲本部に出頭	
自 一、二 至 一、五	書類整理	
一、六	整理完了	
昭三、一、五	日 時（現地出発及内地上陸） 上海出発	
一、八	左世保上陸 兵力 二七名	

~245~

3100

独立混成隊八十九旅団司令部

年月日	概要
昭三、三、二五	<p>編成</p> <p>軍令陸甲第一八号に依り中華民國浙江省温州に於て独立混成隊八十九旅団司令部編成完結</p> <p>行動概要</p> <p>部隊は温州沿岸地区整備中</p> <p>兼号作戦の爲浙江省奉化に集結を命ぜられ</p> <p>奉化縣城に到着</p> <p>越戦と共に上海に集結</p> <p>以降南吳越に於て乗船待期中</p> <p>司令部林大尉以下三五名は先行帰還を命ぜられ上海市政府に集結</p> <p>中國側検査官の實施せる携行品検査異状なく終了</p> <p>船待のため九、一〇両日同所にて停泊の後</p> <p>一四、〇〇飯田棧橋より海防艦第二〇七号に乗船（輸送指揮官独立混八十九旅団大隊長 川上少佐）</p>
昭三、六、七	
八、四	
三、三、九	
三、二	

~ 246 ~

3101

八一四 海戦証書発布
 八一三 終戦のため集結を命ぜられ上海（吳淞）に集結す

編成武田部隊復員経過の概要

編成部隊長 陸軍少佐 武田正雄

編成部隊及人員

編成部隊本部 独立混成第九旅団司令部

武田少佐以下二一名

才一中隊 独立歩兵隊五二四大隊

森田大尉以下三九名

才二中隊 〃 〃

潮辺大尉以下二九名

才三中隊 〃 〃

小原中尉以下一三〇名

才四中隊 〃 〃

永原中尉以下一七〇名

才五中隊 独立機関銃第九隊

大矢大尉以下一七〇名

才六中隊 独立混成第九旅団

大久保大尉以下二一名

才七中隊 砲兵隊

浅田中尉以下一三〇名

乗船命令受領より復員迄

計 一、〇〇〇名

昭三、二一〇 第十三軍師司令部に依り帰還内報受領

昭三、二一七 上海旧市政府に集結

昭三、二一六 内地帰還のため上海港出帆（船名 隊豊丸）

~247~

3102

昭和二十三年

年月日	概	要
昭三二一	鹿児島海上陸	
除隊召集解除		
残留者(残務整理)		
独立混成第八十九旅団副官		
司令部付		
同		
旅団復員の現況	復員完了人員	復員地
昭三二一	一〇〇〇名	鹿児島
一八	九九六名	若世保
一四	一四四四名	ソ
一七	二四〇名	博多
一七	三五〇名	ソ
		武田正雄 陸軍少佐 小野次 陸軍曹長 野次 陸軍軍曹 元助 中井 (二月八日付除隊)

~248~

3103